

段階 1	行為者	内容
Proposal Review (研究計画構 想)		<ul style="list-style-type: none"> <li>学位を申請しようとする者は、研究計画の段階で、「課題研究構想ワークショップ (“Research Design Workshop”）」において、研究構想・計画について報告し、学位論文執筆を開始する水準にあると判断されなければならない。</li> <li>2年次を終えるまでに実施することが望ましい。</li> </ul>
	学生 → 指導教員	Reviewの実施日時、審査委員の選出等を、指導教員に依頼する。 ※周知期間確保のため、実施日はなるべく2週間後以降に設定。
	指導教員 → 学務チーム	Reviewの実施日時、場所、審査委員名を学務チームに報告する。
	学務チーム	Reviewの実施日時と場所を、HPで周知する。
	学生、審査委員	<b>【Proposal Review (研究計画構想) 実施】</b>
	指導教員 → 学務チーム	学位論文執筆を開始する水準にあるか否か (合格・不合格)、指導教員は、Review実施後速やかに所定様式により報告
	指導教員	Reviewが実施された旨、教育会議で報告
段階 2	行為者	内容
Interim Review (予備審査)		Proposal Reviewにおいて、学位論文執筆を開始する水準にあると判定された者で、博士論文全体のドラフト (予備審査論文) を提出した者は、Interim Reviewに参加できる。
	学生 → 指導教員	博士論文全体のドラフト (以下、予備審査論文) を完成後、指導教員にInterim Reviewの実施について内諾をとる。
	学生 → 学務チーム	内諾がとれたことを学務チームに報告する。
	学務チーム → 指導教員	Reviewの実施時期、審査委員 (案) の選出等を依頼。 ※周知期間確保のため、実施日は、なるべく2週間後以降に設定。
	指導教員 → 学務チーム	主査 / 審査委員 (案) 及び実施日時・場所を決定のうえ、学務チームに報告。 ※実施日時・場所が未定の場合は、決定次第報告。
	学務チーム	Reviewの実施日時と場所 (案) を、HPで周知。
	審査委員会 (主査)	教育会議にて、審査委員会の設置、審査委員の構成について説明、付議。
	学生、審査委員会	<b>【Interim Review (予備審査) 実施】</b>
	主査 → 学務チーム	Review実施後速やかに、所定様式により、判定結果を報告 (合格、条件付き合格、不合格)。
	審査委員会 (主査)	教育会議にて、審査結果の報告、付議。
段階 3	行為者	内容
Final Review (最終審査・本 審査)		Interim Reviewに合格した者は、学位論文を提出できる。
	学生 → 指導教員	博士論文完成後、指導教員にFinal Reviewの実施について内諾をとる。
	学生 → 学務チーム	内諾がとれたことを学務チームに報告する。
	学生 → 学務チーム	学位申請論文、論文の内容の要旨等、所定書類一式を提出
	学務チーム → 指導教員	Reviewの実施時期、審査委員 (案) の選出等を依頼。 ※周知期間確保のため、実施日は、なるべく2週間後以降に設定。
	指導教員 → 学務チーム	主査 / 審査委員 (案) 及び実施日時・場所を決定のうえ、学務チームに報告。 ※実施日時・場所が未定の場合は、決定次第報告。
	学務チーム	Reviewの実施日時と場所 (案) を、HPで周知。
	審査委員会 (主査)	教育会議にて、審査委員会の設置、審査委員の構成について説明、付議 (メール審議も可)。
	学生、審査委員会	<b>【Final Review (最終審査・本審査) 実施】</b>
	主査 → 学務チーム	Review実施後速やかに、所定様式により、判定結果を報告 (合格、不合格)。
審査委員会 (主査)	論文審査、最終試験を終了したときは、直ちに論文の内容の要旨、論文審査の結果の要旨、最終試験の結果の要旨に、学位を授与できるか否かの意見を添え、教育会議に文書で報告しなければならない。	
学生 → 学務チーム	本審査終了後の論文及び提出書類	

# 1.学位審査のスケジュール（概要）

2024年3月現在

日付：2024年度の場合

青：会議日程及び審議等事項(教＝教育会議)

学生の学年	2025年 3月修了者			審査(レビュー)等	2024年 9月修了者			備考	
	年	月	会議開催日、提出期限等		年	月	会議開催日、提出期限等		
～2年生	2024	3		プロポーザル・レビュー(研究計画構想)	2023	8		各レビュー開催2週間前にHPで公表、公開で実施 プロポーザル・レビューは、2年次を終えるまでに実施することが望ましい。	
3年生～		4		↓		9			
		～		合格	2024	～			
		10	10/16(教)	合格の報告(教育会議)		4	4/3(教)	プロポーザル・レビュー結果は教育会議報告のみ(審議不要)。	
		11		予備審査論文完成		5			
		11	11/13(教)までに	審査委員会の設置承認(教育会議)		5	5/22(教)		
		11		インテリム・レビュー(予備審査)		5/6		各レビュー開催2週間前にHPで公表、公開で実施。	
		11		↓		6			
		11		合格		6			
		↓	12	12/11(教)	合格の承認(教育会議)		6	6/19(教)	インテリム・レビューの結果(判定)は、教育会議の議を経る。
		2025	1	1月下旬までに	論文、論文題目等提出		7	7月中旬までに	内規により日程確定
			1	1/22(教)	審査委員会の設置承認(教育会議)		7	7/10(教)	メール審議も可
			2	2/21までに審査結果を 学務チームへ報告	ファイナル・レビュー(最終審査・本審査)		8	8/7までに審査結果を 学務チームへ報告	各レビュー開催2週間前にHPで公表、公開で実施。
			2		↓		8		
		2	合格			8			
		3	3/12(教)	ファイナル・レビュー合格の報告、学位授与可否議決		8	8/21(教)	教育会議で審査結果を報告し、その報告をもとに教育会議で学位授与可否を議決。	
			学務チームが指定する期日までに	審査後の論文提出			学務チームが指定する期日までに		
		3	3/21(TBD)	修了(学位授与)		9	9/20		
修了後				学位論文公表					

<注>

●上記は、修了を希望する年月ことに、各レビュー実施のデッドラインとなる年月を示したものである。

●実際の審査スケジュールは指導教員と十分に相談すること。例えば、インテリム・レビューに時間を要すると指導教員が判断した場合には、上記目安より早い段階でプロポーザル・レビューに合格することが求められることがある。また、研究の進捗状況によっては、修了までに3年以上要する場合がある。経済系の場合、指導教員によってはプロポーザル・レビューの前に論文がほぼ完成している状態が求められる場合がある。この場合、プロポーザル・レビューは修了予定時期の約半年前に行われ、インテリム・レビューとファイナル・レビューはプロポーザル・レビューの直後に順次実施される。

●各レビューの判定において、条件付き合格や不合格となった場合、再提出や再レビューのスケジュールは指導教員と十分に相談すること。

## 2.学位審査のスケジュール（詳細）

2024年3月現在

略称：学務チーム = 公共政策学務チーム

			2025年3月修了	2024年9月修了		
段階 1	行為者	内容	時期	時期	博士の学位審査に関する内規	「内規」についての申合せ
Proposal Review (研究計画構 想)		<ul style="list-style-type: none"> <li>学位を申請しようとする者は、研究計画の段階で、「課題研究構想ワークショップ(“Research Design Workshop”）」において、研究構想・計画について報告し、学位論文執筆を開始する水準にあると判断されなければならない。</li> <li>2年次を終えるまでに実施することが望ましい。</li> </ul>	2年次を終えるまでに実施することが望ましい。	2年次を終えるまでに実施することが望ましい。	第2条	3. Proposal Reviewに関する事項(1)、(2)
	学生→指導教員	Reviewの実施日時、審査委員の選出等を、指導教員に依頼する。 ※周知期間確保のため、実施日はなるべく2週間後以降に設定。	実施2週間前より前に依頼。	実施2週間前より前に依頼。		(3)
	指導教員→学務チーム	Reviewの実施日時、場所、審査委員名を学務チームに報告する。	実施2週間前迄に報告。	実施2週間前迄に報告。		(5)
	学務チーム	Reviewの実施日時と場所を、HPで周知する。	実施2週間前に周知。	実施2週間前に周知。		(6)
	学生、審査委員	<b>【Proposal Review（研究計画構想）実施】</b>	2024年10月上旬迄	2024年3月末迄		(3)、(4)
	指導教員→学務チーム	学位論文執筆を開始する水準にあるか否か（合格・不合格）、指導教員は、Review実施後速やかに所定様式により報告。	提出期限（合格） 下記会議前迄	提出期限（合格） 下記会議前迄		(7)
	指導教員	Reviewが実施された旨、教育会議で報告。	2024年10月教育会議(10/16)	2024年4月教育会議(4/3)		

			2025年3月修了	2024年9月修了		
段階 2	行為者	内容	時期	時期	博士の学位審査に関する 内規	「内規」についての申合せ
Interim Review (予備審査)		Proposal Reviewにおいて、学位論文執筆を開始する水準にあると判定された者で、博士論文全体のドラフト（予備審査論文）を提出した者は、Interim Reviewに参加できる。	Final Reviewのための審査委員会を1月教育会議で設置することを想定し、Interim Reviewは、2024年11月迄に実施	Final Reviewのための審査委員会を7月教育会議で設置することを想定し、Interim Reviewは、2024年6月迄に実施	第2条	4. Interim Reviewに関する事項(1)、(2)、(3)
	学生→指導教員	博士論文全体のドラフト（以下、予備審査論文）を完成後、指導教員にInterim Reviewの実施について内諾をとる。				
	学生→学務チーム	内諾がとれたことを学務チームに報告する。				
	学務チーム→指導教員	Reviewの実施時期、審査委員（案）の選出等を依頼。 ※周知期間確保のため、実施日は、なるべく2週間後以降に設定。	2024年11月上旬迄	2024年5月中旬迄		(4)
	指導教員→学務チーム	主査／審査委員（案）及び実施日時・場所を決定のうえ、学務チームに報告。 ※実施日時・場所が未定の場合は、決定次第報告。	2024年11月上旬迄	2024年5月中旬迄		(5)、(6)、(7)、(8)
	審査委員会（主査）	教育会議にて、審査委員会の設置、審査委員の構成について説明、付議。	2024年11月教育会議（11/13）	2024年5月教育会議(5/22)		(9)、(10)
	学務チーム	Reviewの実施日時と場所（案）を、HPで周知。	周知期間2週間を確保	周知期間2週間を確保		(4)
	学生、審査委員会	<b>【Interim Review（予備審査）実施】</b>	2024年11月末迄	2024年6月中旬迄		(5)
	主査→学務チーム	Review実施後速やかに、所定様式により、判定結果を報告（合格、条件付き合格、不合格）。	下記会議前迄	下記会議前迄		
審査委員会（主査）	教育会議にて、審査結果の報告、付議。	2024年12月教育会議(12/11)	2024年6月教育会議(6/19)		(11)、(12)	

			2025年3月修了	2024年9月修了		
段階3	行為者	内容	時期	時期	博士の学位審査に関する 内規	「内規」についての申合せ
Final Review (最終審査・本 審査)		Interim Reviewに合格した者は、学位論文を提出できる。			第11条	5. Final Reviewに関する 事項 (1)
	学生→指導教員	博士論文完成後、指導教員にFinal Reviewの実施について内諾をとる。				
	学生→学務チーム	内諾がとれたことを学務チームに報告する。				
	学生→学務チーム	学位申請論文、論文の内容の要旨等、所定書類一式を提出	<b>論文等提出期限： 2025年1月下旬迄</b>	<b>論文等提出期限： 2024年7月中旬迄</b>	第7条	
	学務チーム→指導教員	Reviewの実施時期、審査委員（案）の選出等を依頼。 ※周知期間確保のため、実施日は、なるべく2週間後以降に設定。	2025年1月下旬迄	2024年7月中旬迄		(2)
	指導教員→学務チーム	主査／審査委員（案）及び実施日時・場所を決定のうえ、学務チームに報告。 ※実施日時・場所が未定の場合は、決定次第報告。 教育会議にて、審査委員会の設置、審査委員の構成について説明、付議（メール審議も可）。	2025年1月下旬迄	2024年7月中旬迄		(2)、(4)、(5)、(6)、(7)、 (8)
	審査委員会（主査）		<b>2025年1月教育会議(1/22)</b>	<b>2024年7月教育会議(7/10)</b>	第10条	(4)、(5)、(6)、(7)、(8)
	学務チーム	Reviewの実施日時と場所（案）を、HPで周知。	周知期間2週間を確保	周知期間2週間を確保		(2)
	学生、審査委員会	<b>【Final Review（最終審査・本審査）実施】</b>	<b>2025年2月下旬迄</b>	<b>2024年8月上旬迄</b>	第11条	(3)、(9)
	主査→学務チーム	<b>Review実施後速やかに、所定様式により、判定結果を報告（合格、不合格）。</b>	<b>2025年2月21日迄</b>	<b>2024年8月7日迄</b>		
	審査委員会（主査）	論文審査、最終試験を終了したときは、直ちに論文の内容の要旨、論文審査の結果の要旨、最終試験の結果の要旨に、学位を授与できるか否かの意見を添え、教育会議に文書で報告しなければならない。	<b>2025年3月教育会議(3/12)で報告</b>	<b>2024年8月教育会議(8/21)で報告</b>	第12条	
学生→学務チーム	本審査終了後の論文及び提出書類	<b>学務チームが指定する期日までに</b>	<b>学務チームが指定する期日までに</b>			

			2025年3月修了	2024年9月修了		
段階4	行為者	内容	時期	時期	博士の学位審査に関する内規	「内規」についての申合せ
学位授与議決	教育会議	【教育会議にて学位授与の可否の議決】	2025年3月教育会議(3/12)	2024年9月教育会議(8/21)	第13条	
学位授与式、 伝達式	東京大学／公共政策学 教育部	学位記授与式、学位記伝達式	2025年3月21日（予定）	2024年9月20日（予定）		
学位論文の公表	東京大学／公共政策学 教育部	学位論文の公表	2025年6月下旬（未定）	2024年12月中旬（未定）	第15条	

※満期退学の場合			3月修了	9月修了	博士の学位審査に関する内規	「内規」についての申合せ
課程博士（満期退学）	★単位取得満期退学者	満期退学後3年以内に限り予備審査及び学位論文審査と最終試験を受けることができる。 <u>ただし、退学前に研究計画構想発表（Proposal Review）において学位論文執筆を開始する水準にあると判断されることが必要。</u>	Interim Review以降は、上記スケジュールと同じ	Interim Review以降は、上記スケジュールと同じ	第14条	

★単位取得満期退学者とは、次の要件を満たす者のことを言う。

- ・ 課程を修了するに必要な年数以上在学したこと
- ・ 課程を修了するに必要な所定の単位を修得したこと
- ・ 加えて、公共政策に於いては、退学前に、Proposal Reviewに合格していることが求められる。

<注>

●上記は、修了を希望する年月ごとに、各レビュー実施のデッドラインとなる年月を示したものである。

●実際の審査スケジュールは指導教員と十分に相談すること。例えば、インテリム・レビューに時間を要すると指導教員が判断した場合には、上記目安より早い段階でプロポーザル・レビューに合格することが求められることがある。また、研究の進捗状況によっては、修了までに3年以上要する場合がある。経済系の場合、指導教員によってはプロポーザル・レビューの前に論文がほぼ完成している状態が求められる場合がある。この場合、プロポーザル・レビューは修了予定時期の約半年前に行われ、インテリム・レビューとファイナル・レビューはプロポーザル・レビューの直後に順次実施される。

●各レビューの判定において、条件付き合格や不合格となった場合、再提出や再レビューのスケジュールは指導教員と十分に相談すること。